

Bibliophiles

ビブリアファイルズ No.1(2020年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館

え？「本の虫」って
いう意味ですけど。



アメリカ文学の新訳 2冊の紹介です！

『ハックルベリー・フィンの冒けん』

トウェイン作 柴田元幸 訳

かのヘミングウェイが「すべてのアメリカの作家が、この作品に由来する。この作品以前に、アメリカ文学とアメリカの作家は存在しなかった。」と絶賛した、言わば「アメリカ文学の源流」です。貧困白人の主人公・ハックと黒人のジムがさまざまな苦難を乗り越えて友情を深めていく物語ですが、「しゃべり言葉」で書かれた最初の小説の一つでもあります。タイトルの最後をあえて「冒険」ではなく「冒けん」としたのは、ハックの口調が難しい漢字が書けないイメージに近かったからみたいです。

『キャッチャー・イン・ザ・ライ』

サリンジャー作 村上春樹訳

『ライ麦畑でつかまえて』という邦訳タイトルで長く親しまれてきた青春小説の名作。かの作家・村上春樹は英文学の翻訳者としても高く評価されていますが、ここでも村上氏はティーンエイジャーの主人公に乗りうつったかのような若者言葉を操り、うまく日本語に訳しています。新海誠の映画『天気の子』にこの本が登場し、昨年度の出版界でひそかにブームを巻き起こしていました。

哲学の本、たくさん購入しました！

じつは本校では「哲学・心理学・宗教」にあたる日本十進分類法の「1」の棚はひそかに人気なのです。しかし、哲学の原作はあまり読まれず、『〇〇訳 △△の言葉』といった感じの入門書ばかりが読まれる傾向があります。

やはり本物は大事です。ハードルは高いのですが、哲学の原作に少し挑んでみませんか？

まずはパスカルの『パンセ』。「人間は考える葦である。」の名言でも有名な本ですが、原作を読むとこの名言、ビミョーに変えられて世間に広まっていることがわかります。また信仰を「ギャンブル」として解説したくだり(断章 418)も有名です。

哲学者のドゥルーズとガタリによる共著『千のプラトー』は20世紀を代表する名著の一つで、「鳥や虫の鳴き声は音楽の芸術である。芸術は人間が発明したのではなく、人間以前に始まっていた。」などと、驚くべき主張の数々に出会います。

ほかにもカントが自分自身の哲学を分かりやすく解説した『プロレゴメナ』や20世紀になって再評価された17世紀のスピノザの『エティカ』、ケルケゴールの『死に至る病』など購入しました。

『タカラヅカの解剖図鑑』中本千晶ほか単に「タカラヅカ」と言えば、阪急の運営する宝塚歌劇のこと。それくらい誰でも知っていますが、「コアなファンが多くて入り込めそうにない」「観客は女性ばかりで男はちょっと・・・」と尻込みしているあなた。この本はどうして女性があんなにも女優に夢中になれるのか、そのワケを教えてください。またタカラヅカの5つの「組」の個性を短歌で表現するなど、これを読めば今すぐにヅカファンになれるかも。

国ごとの歴史をまとめて読むと・・・

世界史では、当然世界中の多くの国を学びます。そしてどうしても年代順に色んな国のできごとを習っていくことが多いのです。でも重要な国については国ごとにまとめた本を借りて読んでみると「ああ、そういうお国柄だからああいう歴史が・・・」と目からウロコが落ちることがあります。

関真興『一冊でわかるドイツ史』と福井憲彦『教養としてのフランス史』は、そんなヨーロッパの

新型コロナの流行する今だから読みたい本

2020年は「新型コロナウイルスの年」として後世の教科書に載りそうな予感がしますね。でも家で静かに過ごすべきこんな時こそ読書！ですよね。

感染症に対してみなさんの意識が高まっていると思います。テレビで最近よくお見かけする岡田晴恵教授の『感染症キャラクター図鑑』は、彼女の分かりやすい解説が読みやすいですし、いとうみつるの手によりSARSなどのウィルスが漫画のキャラクターのように描かれて秀逸ですよ。

大国・ドイツとフランスについてまとめた良書です。ベートーヴェンの音楽に代表される「ちょっとおカタイ」イメージのドイツとファッションなどの「お洒落」なイメージのフランスですが、実はもともと「フランク王国」という一つの国でした。この「フランク francus」がフランス france へと変化していったのです。片やドイツは19世紀後半まで国が統一できず、その後も苦難の道を歩みます・・・ぜひご一読を。

壁は自分自身だ！



人気の『かぐや様は告らせたい～天才たちの恋愛頭脳戦～』、全巻購入しました！！

この4月から毎日放送などで第2期のアニメが放映される人気漫画です。「頭脳戦」というストーリー展開やギャグ色の濃さが持ち味の、異色の学園ラブコメです。

今号のひとこと

壁は自分自身だ。『壁を破る言葉』より

岡本太郎(1911-1996)

「太陽の塔」の作者の言葉です。今ではもう万博公園のシンボルとも言える太陽の塔ですが、岡本太郎自身は、むしろ文明を礼賛する万国博覧会などは好きではありませんでした。彼は万博のために太陽の塔を建てましたが、それは「経済やテクノロジー至上主義へのアンチテーゼ(反対の主張)を万博のど真ん中に打ち立てた」つもりだったのです。しかし太陽の塔は人気を呼び、当初取り壊す予定が変更されて永久に保存されることになりました。時代に流されない彼の生き方が、皮肉にも万博のシンボルを産んだようですね。

『宇宙と宇宙をつなぐ数学 IUT 理論の衝撃』 加藤 文元

題名を見て「何のこと？」と思ったかも知れませんが、じつは最近話題になった数学の「ABC 予想」についての解説本でもあるのです。「数学で最も重要な未解決問題の一つ」と言われるこの問題を、京大の望月新一教授が解いて今年の2月にニュースになりました。（じつは論文自体は8年前に発表されていて、数学の有力誌の査読を通過したのが今年なのです。）本書は、望月氏の友人でもある筆者が入門書として易しく ABC 予想を解説してくれます。

『キャンプ大事典』松山拓也 監修

紅葉の美しい森の湖畔のキャンプ場でコーヒーを飲みながら友達とおしゃべり・・・憧れのキャンプですね。この本の著者は、年間30日以上を全国津々浦々のキャンプ場内のテントで過ごし、みずからもキャンプ場をプロデュースする生粋のキャンプ愛好家です。道具の選び方からおすすめのキャンプ料理のレシピまで、豊富な写真とともに丁寧に解説しています。

『首都感染』 高嶋哲夫

10年前に書かれた小説ですが、「2020年のコロナ禍」を予言していたのでは？と今話題になっています。ただし、新型コロナウイルスの致死率が1%未満なのに対して、この小説のウイルスは60%と強毒の設定です。ご一読を。

『美の法則』 富永愛

今や日本を代表するスーパーモデルの富永愛ですが、17歳でニューヨークのラルフローレンのショーに始めて出た時は苦い思いをしました。他のモデルが美しいジャケットなどを着せてもらっているのに、富永氏が着たのはメンズっぽいコートにスタッフが履いてきた薄汚れたスニーカー。「もしかしてこれは東洋人への差別なのでは？」しかし、無事にショーを終えて、そんな失意の富永氏が翌朝、見たものは・・・

こんなエッセイも多いのですが、「ジムトレーニングメニュー」「頭皮マッサージ法」といった美容法ももちろんバッチリ載っています。ファッションに興味のある人もない人もどうぞ。

『アリエナクナイ科学ノ教科書～空想設定を読み解く31講～』くられ

『ルパン3世』に登場する石川五右衛門。自慢の斬鉄剣をふりかざすと、車や飛行機が真っ二つに・・・

フィクションの世界ではこうした「鉄をも切り裂く剣」がよく出てきますが、はたしてああいった刀は科学的に製造可能なのでしょうか？

この本は、そんな疑問に答えるべく、あくまで真面目に科学の視点から、「不老不死の人間」や「ゾンビ」などの空想上の設定が可能かどうかを解説してくれます。ちなみに筆者は「幽霊」の実際には懐疑的で、そのことを物理学の立場からうまく解説していますよ。

『眠れなくなるほど面白い 社会心理学』 亀田達也

大学の「社会学部」や「心理学部」などで学ぶことの多い、社会心理学。社会の中で人々がなぜそう感じ、そう行動したか、を学問します。

ある大学で「広告板をぶら下げてキャンパスを歩いて欲しい」というアンケートを取ったところ依頼に応じた学生の多くは他の学生も同意すると回答しましたが、なんと応じなかった学生も他の学生も同意しないと回答したのです。このことから何がわかりますか？ そう、「自分は一般的だと人は思いがち」なのですね。

ぜひご一読を。

『大学ランキング 2021』『大学図鑑! 2021 有名大学 83校のすべてがわかる!』

どうしても偏差値とか家から近い等の理由で大学を選びがちですね。この2冊は、大学を色んな切り口で評価しています。『ランキング』の方は、客観的なデータ（資格取得者数とか外国人教員の数とか）を載せてますし、『大学図鑑』の方は、実際の現役大学生や卒業生5千人に取材して得られた「学生のナマの声」で大学をざっくばらんにレビューしています。学校選びの一助にいただければと思います。



『クスノキの番人』 東野圭吾

人気作家の最新作です。ちなみにこの本は西宮市立図書館には3冊蔵書がありますが、相変わらず人気で300件以上の予約が入っちゃってます。（5/14現在）おうちの方が読みたい場合も、ぜひ東高校図書館をご利用下さい。

主人公は会社を解雇された腹いせに職場に窃盗目的で侵入したところ、逮捕されてしまいます。すると、突然謎の弁護士が現れ、自分の依頼人の命令を聞けばあなたは釈放される、というこれまた謎の交渉を迫られます。仕方なくその条件のみ、依頼人に会ってみると、その人は主人公の叔母にあたる人物で「これからはクスノキの番人になってほしい」と言われるのですが・・・

辻村深月『ツナグ 想い人の心得』、伊坂幸太郎『逆ソクラテス』も入りました。

『有権者って誰?』 藪野祐三

2016年から選挙権年齢が18歳に引き下げられたのを知っていますか。つまり高校3年時の誕生日がくると、みなさんは「有権者」になるのです。このことは日本の将来と政治を変える一大事なのですが、みなさんは投票をする心の準備はできていますか。この本は、「どうせ自分の一票なんかで政治は変わりゃしない」と思っている人にこそ読んで欲しい本で、投票する前に知っておきたいこともしっかり書かれていますよ。

<編集後記>

やっと今年度の第1号が出せました。4月8日出すつもりで印刷も済んでいたのですが、休校となり配布のチャンスがありませんでした。その後に購入した本の紹介を、すでに印刷済みのプリントの裏面に載せて第1号としました。30年近く学校で働いてきましたが、3か月近くも休校になったのは、もちろん初めての経験でした。